



**紙のまちの魅力と楽しさ大発見
おしごと発見DAYSに700人**



10月26日と27日の2日間、わたり、子どもたちが本市の「おしごと」を見て、聞いて、体験するイベント「しこちゅうおしごと発見DAYS」が、伊予三島運動公園体育館や協力企業の工場などでありました。

市と法皇青年会議所の共催で実現した今回のイベントは、市内企業24社の協力により、工場見学や製造体験ができるバスツアー、遊びを通しておしごとを知ることができ、楽しい企画が盛りだくさんでした。参加した子どもたちは、目を輝かせながらさまざまな仕事を体験。町中に子どもたちの笑顔があふれた2日間でした。

**祝霧の森25周年
「秋の収穫祭」に四国の恵みが集結**



11月3日、今年で開設25周年を迎えた霧の森で、「秋の収穫祭」が開催されました。

記念すべき節目の年の収穫祭は、過去最大規模のマルシェで大賑わい。新宮茶を始めとする地元の特産品に加え、地域おこし協力隊の大廣隊員の呼び掛けで集まった四国各地の特産品が来場者をもてなしました。

**見て触れて文化を感じよう
文化祭が今年も大盛況**



市文化協会による文化祭が10月26日と27日、11月2日と3日の4日間、しこちゅうホールでありました。

会場には、書道から工芸まで約500作品が並び、ステージでは大正琴や民謡などさまざまな演目が披露されました。また、華道や三味線などの体験も行われ、来場者は全身で文化を感じました。

**紙コップで作る夢の国
子どもの祭典が今年も大盛況**



11月3日、みしま児童センター（三島中央）で、「子どもの祭典」が開催されました。

紙コップ約1万5千個で作る「紙コップランド」は、今年も大盛況。参加した子どもたちは、友だちや家族と競い合ったり協力したりしながら紙コップを積み上げ、塔や城壁などさまざまな建造物を作り上げました。

**伊予美人をトップセールス
天下の台所・大阪でいもたき振る舞う**



11月1日、大阪中央卸売市場（大阪市福島区）で、JAUまと市が里芋「伊予美人」のトップセールスをしました。

本市が誇る瀬戸内の恵みを知ってもらうため、セールストークやパンフレット、そして200食のいもたきで、仲卸業者のみなさんの五感に、伊予美人の魅力を訴えました。

本紙上で紹介できなかった記事や写真は、市ホームページ「まちの話題」に掲載しています



日本一の紙のまちから最新技術を紹介 愛大イノベーションセンターシンポジウム

10月29日、愛媛大学紙産業イノベーションセンター（妻鳥町）が最新の研究成果などを発表するシンポジウムが、ホテルグランフォールレ（三島朝日）でありました。

同大学と紙製の検査用デバイスの開発を進めている、イトマン株式会社（伊予市）の鎌田貴志氏が、医療分野における紙製品の可能性と実用化に向けた開発状況を説明しました。



国立印刷局銀行券部 城村圭佑氏



イトマン(株) 鎌田貴志氏



愛媛大学 内村浩美センター長



11月4日、男子400mハードルの日本記録保持者でオリンピックに3大会連続で出場した、為末大氏を講師に招いた陸上教室が伊予三島運動公園多目的グラウンドであり、市内の小中学生300人が参加しました。



「走る哲学者」が子どもたちを指導 為末大さんの陸上教室に300人



展示資料を解説する土屋隆史氏

10月26日、歴史考古博物館・高原ミュージアムで開催中の「東宮山古墳展」で、宮内庁陵墓課の土屋隆史氏と県歴史文化博物館の富田尚夫氏による記念講演がありました。



歴史を紐解く音が聞こえる 東宮山古墳展で記念講演会



11月3日、塩塚峰（新宮町上山）の山頂をゴールとする、日本スカイランニング協会公認競技「四国中央スカイラン」がありました。参加した小学生からプロのランナーまで80人の健脚自慢たちが、秋空に映える標高1043mの山頂を目指して、黄金色のスキの間を駆け抜けました。

新宮の秋空に向かって駆ける 塩塚高原でスカイランニング



書道P甲子園 次回大会のキャッチコピーが『**墨と喝采18祭**』に決定！

来年7月に開催予定の第18回大会で、企画や運営を担う高校生チーム「SHIPS」に、今年は市内3校から昨年を大幅に上回る62人が名乗りを上げました。

その初顔合わせが11月8日、消防防災センターであり、各自が持ち寄ったアイデアを基に、大会のキャッチコピーを決定しました。



子どもたちにワクワク体験を
川之江信用金庫が寄付金を寄贈

市発足20周年を記念して、川之江信用金庫（日浦博基理事長）が定期預金総額の0.01%を寄付するキャンペーンを実施。10月9日の贈呈式で、日浦理事長から篠原市長に寄付金が贈呈されました。日浦理事長は「子どもたちに地域の食べ物や自然に触れてワクワクしながら育つしてほしい」と話しました。



国の数字を支えて29年
後藤希子さんに統計功績者表彰

昨年度実施した「住宅・土地統計調査」に多大なる貢献をしたとして、総務大臣から統計調査員の後藤希子さん（川之江町）に「統計功績者表彰」が贈られました。

後藤さんは、国勢調査や経済センサスなど、数々の統計調査に従事され、これまでも県統計協会長表彰などを受賞しています。



子どもは地域で守り育てるもの
石黒忠則さんに県教育文化賞

11月3日、教育文化の向上に尽力した功績を讃える県教育文化賞が、市愛護班連絡協議会の石黒忠則会長（川之江町余木）に贈られました。

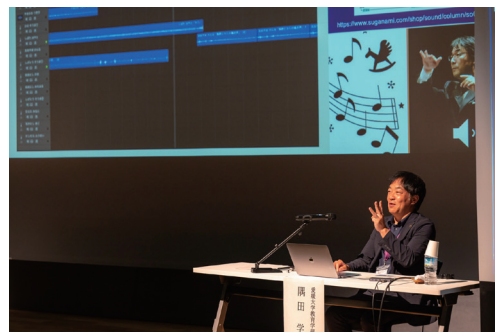
石黒会長は、35年にわたり愛護班活動を続ける傍ら、毎朝川之江小学校前で見守り活動をするなど、子どもたちの健全育成に寄与されています。



実家を空き家にしないために
人の終活・家の終活セミナー開催

10月27日、空き家アドバイザー協議会県四国中央支部が「実家の空き家化防止」をテーマにしたセミナーを川之江ふれあい交流センターで開催しました。

参加者は、全国空き家アドバイザー協議会の河野公宏事務局長の講演やカードゲームを使ったワークショップで、人と家の終活について学びました。



全ての子どもが輝く未来のために
あったか子育てセミナー開催

10月9日、素晴らしい能力を発揮できる一方で、集団生活に困難があることも多い「ギフテッド」がテーマの講演会が、しこちゅーホールでありました。

講師を務めた愛媛大学教育学部の隅田学教授は、子どもたちが自ら興味関心を深め、それを仲間と共有できる環境づくりが重要だと話しました。



四国中央市で働こう！ 四国中央医療福祉総合学院でPR

11月2日に開催された、四国中央医療福祉総合学院（中之庄町）の学院祭に市役所ブースを出展。「四国中央市で働こう！」をテーマに、本市で働くさまざまな専門職の声を紹介しました。また、市役所で働く看護師や言語聴覚士などの専門職が、仕事の内容や自らの進路選択の経験を生徒たちに話しました。



土居地域をもっと元気に 土居駅マーケットに来場者多数

10月27日、JR伊予土居駅前をメイン会場とする「土居駅マーケット」がありました。「土居地域をもっと元気にしたい」という主催者の思いに応えるように、イベントには飲食や雑貨など、約50店舗が出店。歌やダンスのステージイベントも行われ、会場は終日多くの来場者で賑わいました。



関家のルーツは村松町にあり、村松大師堂近くの墓碑には、関中佐の遺髪が納められている

昭和19年10月25日に神風特別攻撃隊の第一陣として、フィリピン・レイテ島沖で米軍艦隊に突入した「敷島隊」の関行男海軍中佐（西条市出身）と大黒繁男海軍飛行兵曹長（川滝町出身）を偲ぶ追悼慰霊式が、10月25日に村松町にある関中佐の墓碑でありました。

追悼慰霊式には、関係者約30人が参列。祖国を守るために殉じた両隊員に、献花や歌で心からの敬意と感謝の念を捧げ、平和を誓いました。



第一陣出撃から80年 本市ゆかりの隊員を慰霊

市長の ひとりごと

選挙と人間の知恵…哲学について



四国中央市長 篠原 実

それぞれの選挙も終わり、次の体制に向けて進み出している。

自分の身分をはっきり決めて、市民に迷惑がかからないようにしなければならぬ。

選挙は、勝ち負けを有権者の数で競う。みんな当たり前のように思っている。でも、それぞれの選挙をそれぞれの人間が仕組みを作っている。よほど情けないことをしなければ、無効とはならない。でも、じっくり見てみると、そうかなと思えることも多々ある。

人間は多数の人が集まって、一定の規則やルールを決めて争いが起きないようにしている。

選挙の結果が出て、勝ち負けという言葉が氾濫している。私は、一度そのような選挙に関する言葉遣いは考えてみたほうがいいと思うが、どうだろう。

選挙の結果が出て、勝ち負けという言葉が氾濫している。私は、一度そのような選挙に関する言葉遣いは考えてみたほうがいいと思うが、どうだろう。